

# 揭示文書

## 課題名「ラトケ嚢胞における症状発現機序の解明」

### 1. 研究の背景

ラトケ嚢胞とはトルコ鞍内で胎児期に発生する空洞の組織が通常は退化し消失するものが、出生後も遺残し大きくなったものです。そのほとんどは無症状で経過しますが、稀に頭痛や視機能障害、下垂体前葉機能低下症、尿崩症などの症状が出現します。無症状の場合は経過観察しますが、症状が出現した場合には手術を行います。手術により頭痛や視機能障害は改善しますが、下垂体前葉機能低下症や尿崩症は改善しないことが多いと言われています。その場合には手術前だけでなく、手術後にもホルモン補充療法や尿崩症の管理が必要となります。しかしどのようなラトケ嚢胞が経過で症候性となるのかは明らかではありません。

### 2. 研究内容

当科にて診断・治療されたラトケ嚢胞の患者さんのデータから、画像的特徴や臨床経過、手術により得られた標本の詳細な評価を行い、症状出現の機序やその予測因子を見出すものです。

### 3. 対象

対象は、当院にて臨床経過、画像からラトケ嚢胞と診断された、あるいは診断後通常の手術適応において嚢胞摘出術が必要と判断された、すべての患者とします。

### 4. 研究の方法

脳神経外科の通常の診療において得られた、ラトケ嚢胞の臨床情報を診療録の閲覧、受診時および周術期に血液検査データや撮影されたCT、MRIなどの画像検査の閲覧、手術により摘出されたラトケ嚢胞の病理標本の検討を行い、それらの試料を後方視的に検討するものです。

### 5. 個人情報保護への配慮

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いたうえで研究試料として使わせていただきます。このような情報を除いたものであっても金沢大学脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためにのみ使用します。

この研究調査の対象になる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意志です。ご参加を希望されない場合はお手数ですが、2020年2月1日までに研究責任者までご連絡いただけますようお願いいたします。またいったん同意なさる意向でありましても、後に同意を撤回される場合には研究期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方についても、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。